

Q₂

なぜ、
価値を生み出せるのか？



トヨタ紡織レポート 2026

12

Section

価値創造のドライバー

- 13 価値創造プロセス
- 14 事業と製品
- 15 経営資源とその強化
- 17 ステークホルダーとの共創
- 19 マテリアリティ
- 22 価値提供事例
 - 1 熱マネジメント技術「遮熱天井」
 - 2 新発想の航空機シート

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

価値創造プロセス

Visionの実現に向けて――

トヨタ紡織グループは、「技術開発」「ものづくり」「人づくり」の3つの強みを活かし、安全・環境・快適を追求した最高のモビリティライフを提供することで、企業価値を向上、持続可能な社会の実現に貢献します。

マテリアリティ

本業を通じて優先的に取り組む
重要課題を解決する姿

P.19

Vision

明日の社会を見据え、世界中のお客さまへ
感動を織りなす移動空間の未来を創造する

P.7

経営資源

事業活動

創出価値

財務資本

製造資本

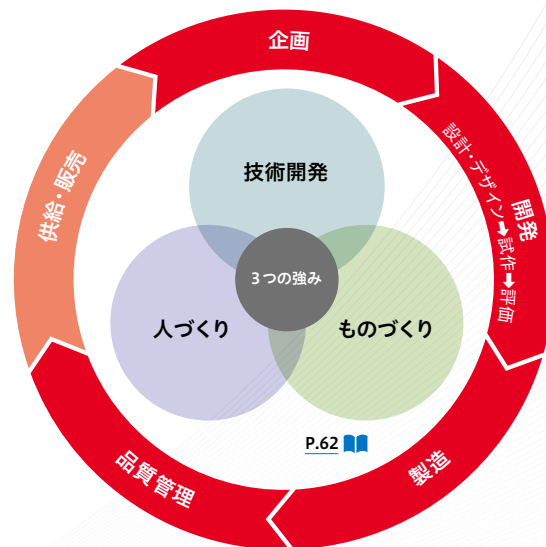
知的資本

人的資本

社会・関係資本

自然資本

P.15



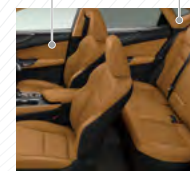
P.62

移動空間

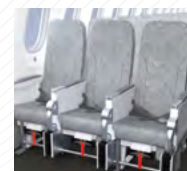
インテリアスペースクリエイターを目指して

ドアトリム

天井まわり



自動車用シート



航空機シート

ユニット部品

マルチバスウェイへの貢献

フィルター製品

電動製品

モーターコア FCセパレーター リチウムイオン電池

P.14

QUALITY OF TIME AND SPACE

すべてのステークホルダーに
「好きだな、トヨタ紡織」と
言っていたくために…



編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

事業と製品 P.14



マテリアリティ P.19



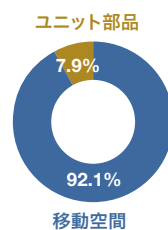
事業と製品

安全・環境・快適を軸に、モビリティの変化に左右されず、
車室空間の価値で差別化を——

売上収益(2025年度)
20,370 億円

営業利益(2025年度)
539 億円

売上収益構成比



移動空間



シート

- 自動車用シート
- 航空機シート
- 自動車用・航空機以外



内外装

- ドアトリム
- 天井まわり
- フロアカーペット
- デッキまわり
- 外装品

製品が生み出す価値

シート
(骨格・デバイス、クッション、表皮)

- 衝突時の乗員保護
- 安定した着座姿勢保持

シート



シート骨格・デバイス



ドアトリム

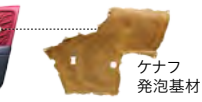
- 高剛性による構造安定性の確保
- 側面衝突時のエネルギー吸収

ドアトリム



軽量素材・環境対応部品

- 燃費・電費向上への貢献
- 環境負荷の低減

Lexus LS
ドアトリムケナフ
発泡基材シート・内装の一体提案(モジュール)
(シート、ドアトリム、天井まわり など)

- 音・光・熱により快適で高付加価値な車内空間を実現
- 快適な温熱環境とエネルギー効率の両立
- 静かで上質な車内空間の提供
- 光による空間演出で付加価値を創出

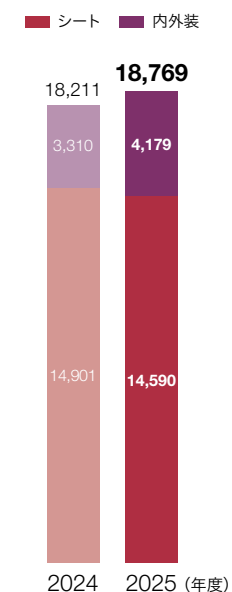
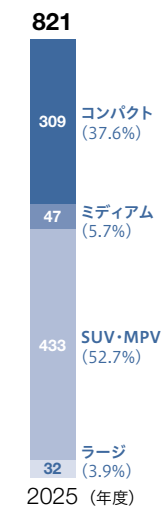
ドアトリム

天井まわり



自動車用シート

製品別売上収益(億円)

自動車用シート
生産台数・車種
構成 (万台)

ユニット部品



- フィルター製品
- エンジン周辺樹脂製品
- 電動製品
- その他

エアフィルター

- 空気質向上
- 車内空気質の向上による快適性・健康価値の提供

エアフィルター

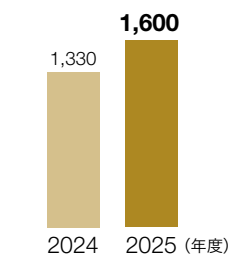


電動製品

- モビリティ全体の環境性能向上に貢献

モーター
コア

製品別売上収益(億円)



編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

事業・製品



経営資源とその強化

経営資源	重視する理由	強化策(●)・課題(▲)
 財務資本	キャッシュ・フローの最大化と最適なアロケーションを図ることで、健全な財務基盤を維持しつつ、持続可能な成長を実現します。	● 成長・戦略投資の確実なリターン獲得 ● 資産効率化を含めた営業キャッシュ・フローの最大化 ● 株主・投資家との建設的な対話 ▲ 資本効率の向上と財務健全性の強化を両立
 製造資本	世界を舞台に、高品質なもののづくりを追求しています。各地域において、最適な製品を最適なタイミングで生産・納入するために、企画・設計から製造・物流までを一気通貫で捉え、ものづくり競争力を強化していきます。	● 競争力のある次世代ものづくり体制の確立 ● 常に改善し続ける現場力の実現 ▲ 匠の技能と手の内化した技術の融合 ▲ サプライチェーンスルーでの次世代物流の実現
 知的資本	時流に先んじた飽くなき好奇心と探求心を原動力に、技術開発に挑戦してきました。これまで蓄積してきた知見やノウハウを活かし、すべてのモビリティへ“上質な時空間”を提供していきます。	● 移動空間全体の企画提案力・技術開発力の強化 ● インテリアスペースクリエイター・マルチパスウェイ・新事業創出を軸とした技術戦略に資する知財戦略の推進 ▲ 将来の変化を見据えたマルチパスウェイやカーボンニュートラルへの迅速な対応 ▲ 制御・ソフトウェア技術者の確保
 人的資本	世界各地に拠点を展開する中で、成長戦略を実現するための人材を確保し、配置、育成するための人材戦略は、最重要な経営課題の一つです。グローバルレベルでの人材育成と活用を強化していきます。	● 新しい価値やアイデアを生み続けることができる人づくり・環境づくり ● 多様な人材の活躍推進と成長への支援 ● 働きやすさの追求 ▲ 主要ポストへのローカル人材登用の加速
 社会・関係資本	トヨタ紡織グループの事業活動は、多様なステークホルダーとの連携により成り立っています。ステークホルダーとの良好な関係づくりが、競争力の向上や新たなビジネス機会の創出につながると考えています。共存共栄の精神のもと、ステークホルダーとともに成長を目指します。	● CVC(コーポレートベンチャーキャピタル)によるスタートアップ企業や産官学連携による価値共創 ▲ サプライチェーン全体でのものづくり競争力の獲得とサプライチェーンスルーでの次世代物流の実現 ▲ ステークホルダーとの積極的な対話と経営へのフィードバック
 自然資本	私たちの社会生活や経済活動は、自然が提供する多くの恵み(生態系サービス)に依存しています。私たちは、事業活動を通じて環境課題に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。	● 製品設計における素材の簡素化と代替素材の導入によるモノマテリアル化 ● 再生可能エネルギー比率の引き上げと省エネアイテムの導入 ▲ 製品ライフサイクル全体でのGHG排出量(Scope1、2、3)の可視化と削減 ▲ 各国・各地域の水資源状況に配慮した水使用量の削減

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

経営資源とその強化

経営資源		INPUT		
投入される資本				
	財務資本	自己資本(親会社所有者 帰属持分)期首残高	営業キャッシュ・フロー	現金及び 現金同等物期首残高
		4,474 億円	1,429 億円	2,497 億円
	製造資本	生産拠点数	設備投資額	たな卸資産回転日数 (原材料・仕掛品・製品)
		119 拠点	680 億円	7.3日
	知的資本	研究開発拠点数	研究開発費	特許保有件数
		12 拠点	613 億円	4,303 件
	人的資本	連結従業員数	日本以外の地域で 勤務する従業員の割合	開発トレーニングに 関する総コスト
		45,521 人※1	68.1 %	20.3 億円
	社会・関係資本	グローバル展開	CVC出資額 (出資件数)	投資家・アナリストとの 対話回数
		23 の国と地域	22 億円(19件)	170 回/年
	自然資本	総エネルギー使用量	水使用量	
		3,072,956 GJ	2,441 千m ³	

2026年3月31日時点(2025年度実績含む)

※1 臨時従業員除く

主な実績や外部評価		OUTPUT	
営業利益率		2.6 %	
DOE(株主資本配当率)		3.3 %	
自己資本比率(親会社所有者帰属持分比率)		41.0 %	
ROE		5.0 %	
市場シェア		シート世界 3 位 ドアトリム世界 2 位	
インテリアスペースクリエイターにつながる 新製品開発率		15 %	
社外発表・論文数		97 件/年	
特許出願件数		497 件/年	
男性育児休職取得率		74 %	
有給休暇取得率		97.1 %	
従業員エンゲージメント肯定回答率		54 %	
社会貢献活動の推進延べ参加者数		3,240 人/年	
サプライチェーンものづくり向上活動 延べ参加サプライヤー数		2,830 社/年	
GHG排出量(Scope1+Scope2)		182,738 t-CO ₂ e	
廃棄物排出量		27,782 t	
再エネ導入率		46 %	

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

ステークホルダーとの共創

社会 お客さま 社員 取引先

共創の事例・具体的な取り組み

関わるステークホルダー

次世代モビリティやカーボンニュートラルの実現に向け、 研究から応用開発までを通じて、多様なパートナーと共創

多様なパートナーと連携し、環境負荷の低減や快適性向上に資する新素材、技術を開発しています。
こうした共創は、単なる技術開発にとどまらず、新たな価値創出の基盤となっています。

NEDO※1先導研究プログラム / エネルギー・環境新技術先導研究プログラム / 「低コスト・高耐衝撃セルロース構造材料の研究開発」

トヨタ紡織は、日本製紙(株)、国立大学法人京都大学、地方独立行政法人京都市産業技術研究所とともに、NEDO先導研究プログラムとして「低コスト・高耐衝撃セルロース構造材料の研究開発」を本格的に開始しました。本プログラムでは、脱炭素社会の実現や新産業の創出に向け、2040年以降の実用化・社会実装を見据えた革新的な技術シーズの発掘・育成を目的としています。あわせて、産学官連携によりこれまで実現が難しかった構造材料用途におけるCNF※2の早期社会実装を目指すことにより、自動車分野にとどまらず家電や建築資材、物流資材といった多様な分野への普及を推進していきます。

※1 持続可能な社会の実現に必要な研究開発の推進を通じて、イノベーションを創出する国立研究開発法人
※2 Cellulose Nanofiber:セルロースナノファイバー。木材などの植物細胞壁の骨格成分である「セルロース」を、化学的・機械的処理によってナノレベル(1mmの100万分の1)の細さまで解きほぐした植物由来の次世代素材



現場と生産技術部門が連携し、AI・IoTを活用したスマートファクトリーで生産効率を向上

ツールの活用・AIを使用した高効率な開発、生産現場の自動化およびDXを進めています。
時間当たり付加価値の最大化に取り組むとともに、サプライヤーや設備メーカーなどサプライチェーン一体となって競争力向上へつなげます。

TBWK(トヨタ紡織ウェスタンケンタッキー)での工程の自動化

次世代搬送システムの導入により、2025年度から進めてきた取り組みを発展し、構内物流全体の自動化を目指します。これにより、現場の生産性および安定性の大幅な向上を図ります。TBWKでは、スマートファクトリー化を通じた生産性および品質の高度化などにより、フル生産となる2027年度に単年度黒字化を見込んでいます。あわせて、地域社会との連携による雇用創出など、ステークホルダーとの関係強化にも取り組んでいます。事技部門をはじめ、設備メーカー、サプライヤー、物流事業者と連携し、AI・IoTを活用した先進的な生産体制の構築を進めることで、コスト競争力および供給安定性の向上を図ります。デジタル技術の活用を通じて生産革新を進め、競争力向上につなげていきます。



スタートアップ企業

大学・研究機関

自動車メーカー

技術開発部門

調達部門

サプライヤー

化学メーカー

環境団体・認証機関

生産技術部門

製造部門

DX部門

品質部門

サプライヤー

設備メーカー

物流会社

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

「低コスト・高耐衝撃セルロース構造材料の研究開発」がNEDO先導研究プログラムに採択



研究・開発

製造



共創の事例・具体的な取り組み

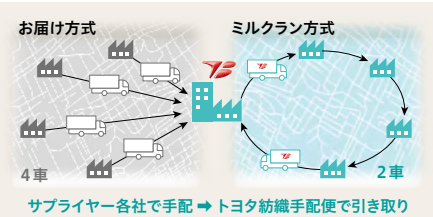
関わるステークホルダー

物流・製造現場との連携により、JIT供給を実現し、環境負荷を低減

新たな物流中継拠点を活用し、外部倉庫および中継拠点の廃止・集約を進めることで、日本国内の物流の整流化を通じた競争力向上を図ります。あわせて、物流効率化を通じてホワイト物流への対応を進めるとともに、カーボンニュートラルの実現に貢献します。

新・物流中継拠点の開設による引き取り物流改革の進化

CO₂排出削減およびドライバー不足の解決に向け、輸送手段の見直しや当社主導の調達物流の最適化を進めています。すでに取り組んでいるミルクラン方式については第一段階が完了し、主要サプライヤーおよび物流事業者との協働を通じて、安定供給体制の維持とサプライチェーンの高度化を実現しています。新物流中継拠点（愛知県豊田市生駒町）の開設により、引き取り物流改革はさらに進みます。トヨタ紡織のオペレーション範囲拡大により、物流便のミルクラン運用の拡大を進めるとともに、構内物流の改善および自動化を検討していきます。



企業や自治体との共創により、新たな移動価値に貢献する製品を提供

自動車部品で培った技術を活かした新たな移動体験の提供を目指します。その一環として、企業・自治体と協力し、都心部の回遊性の向上と賑わいの拡大に貢献しています。

路面公共交通システム「SRT」で新たな移動体験を創出

SRTはSmart Roadway Transit(スマートロードウェイトランジット)の略称で、スムーズな乗降、洗練されたデザインで、名古屋市中心部の回遊性や、地上の賑わいを拡大するために路面を走る、今までにない新しい移動手段です。当社の移動体験支援システム「MOOX-RIDE」が搭載され、街や施設の歴史・文化などの情報を投影し、映像と立体音響で街の魅力を発信します。人々の移動時間を新たな価値創出の機会へと変え、オーバーツーリズムの緩和や地域活性化にも貢献していきます。

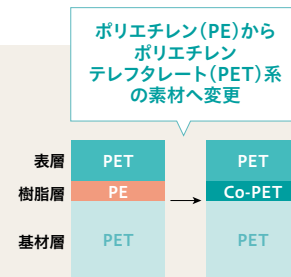


モノマテリアル技術を活用し水平サイクル※を実現へ

廃材を再生繊維へとリサイクルする取り組みを通じて、資源の有効活用と循環のしくみを構築していきます。廃棄物の削減とCO₂排出低減の両立を図り、カーボンニュートラル社会の実現への貢献を目指します。

PET(ポリエチレンテレフタレート樹脂)サーキュラーエコノミーによる環境貢献

本取り組みは、車の内装部品に使用する材料を「使い捨て」から「繰り返し使う」しくみに変えることで、環境負荷の低減と価値提供の両立を目指すものです。従来の繊維系内装部品は、複数の素材を組み合わせた構造によりリサイクルが難しく、廃棄時の焼却により、CO₂を排出していました。本技術では材料をPET系に統一することで、使用後も再び同じ用途に活用できるしくみを実現しています。これにより、製品ライフサイクル全体でのCO₂排出量削減にもつながっています。この取り組みにより、自動車メーカーに対しては、従来と同等の品質や性能を維持しながら環境対応を進められる部品を提供することが可能となります。さらに、車内の快適性や静粛性といった機能を保ちながら、環境に配慮した製品を実現している点も重要な価値です。



※ 使用済み製品を資源にして、同じ製品に利用するリサイクルシステムのこと

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリospaceクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

トヨタ紡織のMOOX-RIDEシステムが名古屋を走るSRTへ搭載！担当者インタビュー



PETサーキュラーエコノミー





マテリアリティ

マテリアリティ		マテリアリティの意味・想い	関連するSDGs
本業を通じて解決する安全・環境・快適に関する課題			
1	インテリアスペースクリエイターとしてイノベーションを通じ、快適・安全・安心を創造し、こころ豊かな暮らしに貢献する 快適な空間 イノベーションの促進	世のため 人のため、繊維事業から自動車部品事業へと発展し、安全・安心な人々の暮らしの向上に貢献してきたトヨタ紡織グループが、「人々が不安なく・自分らしく生きること＝“快適”」の実現（スマートシティの実現）のために、センシングによる生体情報を活用するなどの製品やサービスの提供を行うインテリアスペースクリエイターへと進化する	  
2	確かな技術力で、安全な製品を提供し、交通事故死傷者ゼロ社会に貢献する 製品の安全性 交通事故の低減 高齢化	究極の目標である「交通事故死傷者ゼロ」社会に貢献するために、トヨタ紡織グループの強みである「技術開発」を活かした、高品質で安全性の高い製品（オールインシートやシートベルト、エアバッグなどの製品）やサービスを提供し続ける	 
3	取引先とともに「ものづくり」の革新を図り、環境負荷のミニマム化を実現する 環境負荷の低減 生産性向上 気候変動 省エネ・省資源 取引先との協業	子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な地球環境を目指し、取引先とともに最先端技術による「ものづくり（モノづくりに関わる全工程）」の革新・生産性を向上することにより、温暖化抑制、資源循環、自然共生の3つを重点として取り組みを進め、2050年環境ビジョンのチャレンジ6を達成し、経営資源を有効活用する	    
競争力を発揮するための源泉となる人・組織に関する課題			
4	多様な価値観とチャレンジ精神、チームワークを尊重し、世の中に貢献できる人を育てる 多様性の確保 働き方改革 人権の尊重 社員の健康・労働安全	世の中の困りごとを解決するテーマに挑戦し続けるために、世界中から人材が集まり、発想や考え方を理解し、認め合い、ともに考えられる自律した人材を育てる	 
5	公正で良識ある行動を伝承し、すべてのステークホルダーから信頼される誠実な企業であり続ける ガバナンス コンプライアンス 情報セキュリティ強化 公平で公正な調達	これからも、すべてのステークホルダーから信頼され、ともに成長する会社であり続けるために、創業以来の豊田佐吉翁の想いを具現化した豊田綱領、基本理念にある「公正で透明な企業活動の推進」とTB Wayの「良識ある行動」を実践する	

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

マテリアリティ



マテリアリティ

2020年7月に、さまざまな社会課題の中から本業を通じて優先的に取り組む重要課題を特定し、それらを解決する姿として、マテリアリティを定めました。

マテリアリティ策定の考え方

2019年4月から2020年7月にかけて、全社を挙げて重要課題の特定に取り組み、6つのステップ(次頁参照)でマテリアリティを策定しました。

特定した重要課題は、人と生活を豊かにする「プラスの影響を最大化するもの」と、リスクを回避する「マイナスの影響を最小化するもの」に分類し、それらを「本業を通じて解決する安全・環境・快適に関する課題」と、「競争力を発揮するための源泉となる人・組織に関する課題」に整理。それぞれの課題へ

「解決する姿」を加えたものをトヨタ紡織グループのマテリアリティとしました。

一連のプロセスで、経営陣と次世代リーダー、主管部署であるグローバル経営戦略部(現:経営企画部)が、合計27回の協議を重ね、最終的に取締役会でマテリアリティを決定しました。

その後、2025年中期経営計画で設定した経済的価値を測る財務目標に加え、社会的価値を測るESG KPIを、2021年12月に設定しました。

ESG KPI策定の考え方

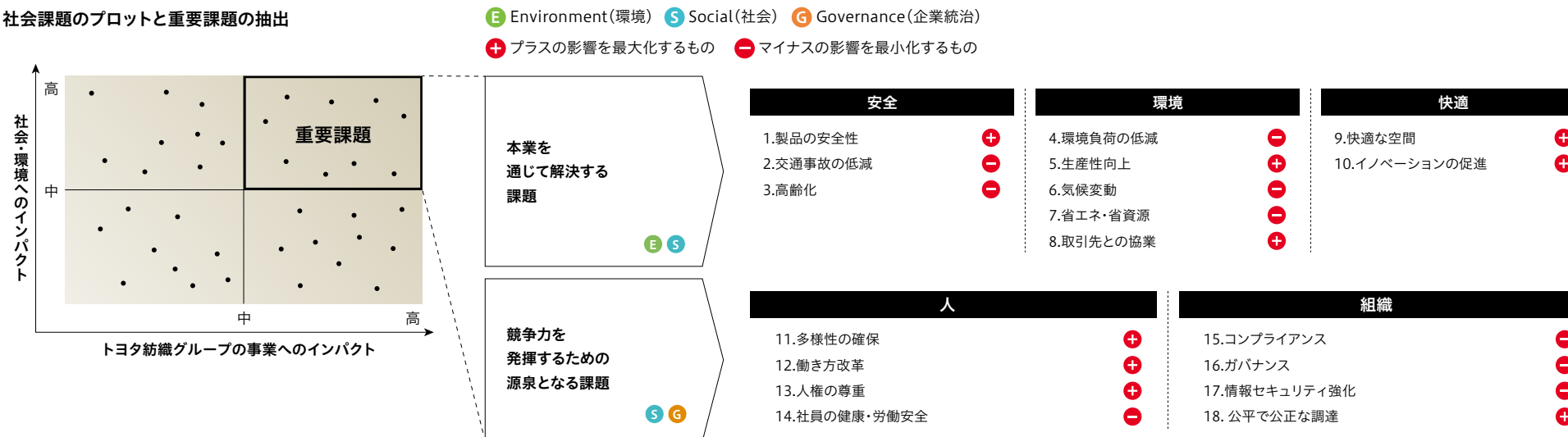
- ESGの観点で整理
- トヨタ紡織グループサステナビリティ基本方針に沿っている
- マテリアリティの進捗を測ることができる

- コーポレートガバナンス・コードに則している
- 社会からの要請に対応している

マテリアリティの進捗管理

年に2回開催するCSV推進会議(議長:経営企画本部を担当するCSO(Chief Strategy Officer))では、CSVの考え方に基づいた企業価値向上に向け、課題や方向性の報告、審議を行うとともに、環境変化に応じ、マテリアリティ自体の見直しも検討しています。また、マテリアリティの進捗を管理するESG KPIについても、CSV推進会議で進捗を確認し、マテリアリティとともに達成度をフォローしています。なお、2030年中期経営計画策定に伴い、ESG KPIを見直しました。

社会課題のプロットと重要課題の抽出



トヨタ紡織グループのマテリアリティ

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

マテリアリティ



マテリアリティ策定プロセス

STEP 0	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	CSR、CSV、ESG、SDGsなどの理解		
	● 役員、部長向け講演会 CSR推進会議（現CSV推進会議）の定例メンバーに加え、2025年中期経営計画の策定に携わる役員、関係部長も出席し、CSV経営の理解を深めた ● 役員、事業体トップ、次世代リーダー向けSDGs講演会 当社グループの役員・事業体トップ・次世代リーダーが一堂に会し、当社グループの未来のあり方やその実現のために何をすべきか議論をする「グローバルウィーク」のプログラムとして実施し、SDGsに関する理解を深めた ● SDGsカードゲームと社会課題の議論（13カ国 41人の次世代リーダー参加） カードゲーム形式でSDGsと社会課題への理解を深めた。その後、当社グループを取り巻く社会課題・経営課題に関し、フィロソフィーに含まれる当社にとって重要な考え方をベースに議論		
STEP 1	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	社会課題の把握		
	● SDGsをはじめとする社会課題の洗い出し SDGsに加え、当社グループが事業を展開する国・地域の社会課題にも注目し、100以上の社会課題を抽出 ● 現時点ですでに解決に貢献できている社会課題の確認 当社グループの事業のライフサイクルバリューチェーンマップを作成し、すでに実施できている社会課題解決への貢献を正（機会）と負（リスク）の両面から整理		
STEP 2	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	社会課題の抽出		
	● 当社のフィロソフィーから取り組むべき社会課題の確認 フィロソフィーに織り込まれている意味を再度認識・理解し、抽出した社会課題の解決がフィロソフィーと一致しているかを確認 ● 当社の強みを活かして解決できる社会課題の確認 当社グループの3つの強みである「技術開発」「ものづくり」「人づくり」を発揮することで解決できるかを確認 ● マテリアリティワーキングによる議論：10回（17人参加）		

STEP 3	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	ステークホルダーからの期待の確認		
	● 投資家へのヒアリング：3回（3社7人参加） ● 社員向けアンケート：1回（対象260人） ● 経営上の課題確認：上記ヒアリング、アンケート結果を踏まえ、社内の方針との整合性を確認		
STEP 4	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	社会課題のプロットと重要課題の特定		
	● 社会課題を整理し、当社が優先して取り組むべき重要課題を特定 「社会・環境へのインパクト」と「当社グループの事業へのインパクト」の視点で検証し、取り組むべき重要課題を特定 ● 当社のVisionとも整合する、5つのマテリアリティを策定 「本業を通じて解決する安全・環境・快適に関する課題」と「競争力を発揮するための源泉となる人・組織に関する課題」に整理し、5つのマテリアリティを特定		
STEP 5	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	妥当性の確認		
	● CSV推進会議で議論 2020年2月に臨時的CSR推進会議（現CSV推進会議）を開催し、マテリアリティの構成・文言（表現）について議論。社員のマテリアリティへの理解を深めるため、この文言を選んだ理由を「意味・想い」として整理することを決定 ● 社外取締役、社外監査役との議論 社外役員への説明を2回実施（2020年4月、7月）。得られた指摘に基づいて経営におけるマテリアリティの位置づけを明確にし、「経営の考え方」として経営体系を整理		
STEP 6	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	マテリアリティ決定		
	● 2020年7月の取締役会で、トヨタ紡織グループのマテリアリティを決定		
STEP 7	参画者		
	社員	社外ステークホルダー	取締役/役員
	ESG KPI設定		
	● 社会的価値を測るESG KPIを設定。マテリアリティの実現に向けて、達成を目指す		

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

マテリアリティ



価値提供事例 1 熱マネジメント技術「遮熱天井」

関連するマテリアリティ

1

インテリアスペースクリエイターとしてイノベーションを通じ、快適・安全・安心を創造し、こころ豊かな暮らしに貢献する

快適な空間 イノベーションの促進

関連するマテリアリティ

3

取引先とともに「ものづくり」の革新を図り、環境負荷のミニマム化を実現する

環境負荷の低減 生産性向上 気候変動
省エネ・省資源 取引先との協業

太陽光による熱の影響を低減

天井材の温度上昇を抑え、車室内への熱の侵入を抑制。

遠赤外線を反射する天井が、エアコンの負荷の低減に貢献。

どんな取り組み？

当社は、車室空間の快適性向上に向け、「音・光・熱」の各領域で技術開発を進めています。遮熱天井は其中でも「熱」に着目した製品であり、車室内への熱の侵入を抑制することで快適性と環境性能の両立に貢献します。日射によってルーフパネルから遠赤外線が放射されます。これは輻射と呼ばれ、この輻射を天井裏面の反射層で反射することで、天井材の温度上昇を抑え、車室内への熱の侵入を抑制します。その結果、エアコンの負荷を軽減し、実用燃費が向上することで環境負荷低減に貢献します。当社は「音・光・熱」の技術を磨き、快適で魅力ある車室空間の実現に取り組んでいます。

価値提供ポイント

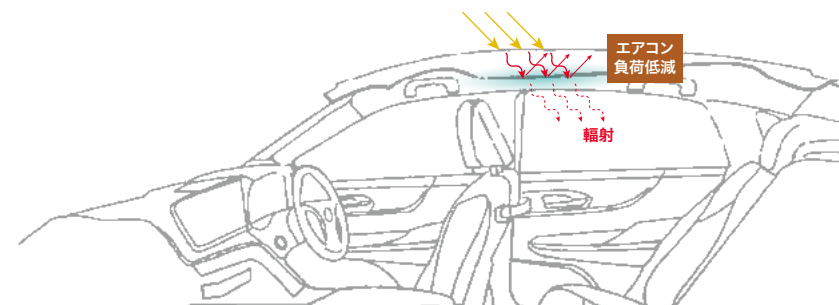
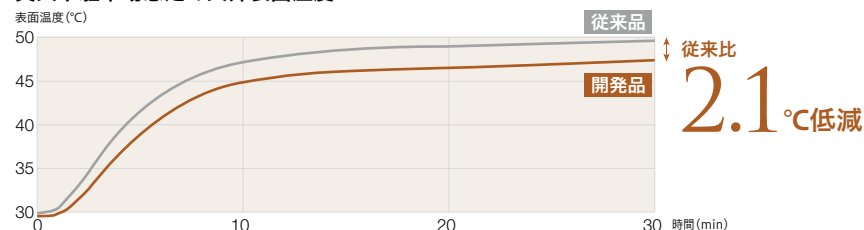
エアコン負荷の低減

車室内のルーフ部分からの入熱が大幅に抑制されるため、炎天下などでの室内温度の上昇が緩和され、結果的にエアコンの稼働を抑えることができ、バッテリー消費や燃費の改善に寄与します。

複数車種への採用拡大と今後の展開

トヨタMIRAI、クラウン、bZ4X Touring、スバルTRAILSEEKERなどの複数車種へ採用が進んでいます。今後も適用車種の拡大を図るとともに、熱領域における技術開発を深化させ、人を中心とした熱マネジメントシステムの実現を目指していきます。

炎天下駐車場想定天井表面温度



編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ



価値提供事例 2 新発想の航空機シート

関連するマテリアリティ

1

インテリアスペースクリエイターとしてイノベーションを通じ、
快適・安全・安心を創造し、こころ豊かな暮らしに貢献する

快適な空間 イノベーションの促進

車いすの まま、空へ。

移動の壁を壊す ウェルボヤージュ・シート

JAXAとともに開発。車いすの乗り移りゼロで窓際席へ、
機内を自由に動ける——誰もが楽しめる空の旅を目指して。

どんな取り組み？

車いすユーザーが航空機を利用する際、搭乗や機内での移動に、多くのハードルがあります。トヨタ紡織と国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が共同開発を進める「ウェルボヤージュ・シート」は、この課題を構造的に解消する、まったく新しい発想のプロダクトです。車いすをそのまま座席として固定することで「移乗」を不要とし、搭乗から着席までのプロセスを一体化。さらに、飛行中は座席をフレームから取り外すことで機内を自由に移動でき、トイレ利用もスムーズに行えます。自動車用シート開発で培った技術を航空分野へ応用し、安全性と快適性を両立。今後も、自動車用シートや内外装製品を中心に、多様なモビリティにおいてすべての人が安心して移動を楽しめるユニバーサルデザインの実現に向けて取り組みます。

価値提供ポイント

身体的・心理的 負担からの解放

複雑な移動動作を不要とすることで、車いすユーザーの身体的・心理的負担を軽減するとともに、介助者の負担軽減にも貢献

自由な座席選択と 機内移動の実現

シートは横スライド方式で脱着でき、限られた空間にも対応。窓側席の選択に加え、移乗することなく、搭乗・降機やトイレ利用も可能となり、機内での自由度が大きく向上

誰もが同じ 上質な座り心地を

「車いす用だから」と妥協することなく、健康者も障がいのある方も、誰が座っても同じ快適さを楽しめる高いクッション性と衛生性を実現。真のユニバーサルデザインを追求

Step 1 車いすのまま 座席まで移動



シートを固定するフレーム

Step 2 フレームにはめ込み、 横にスライド



アシストグリップ

Step 3 通路側にあるロックレバーで シートを固定



ロックレバー

編集方針

1 トヨタ紡織のはじまりとこれから

2 価値創造のドライバー

3 インテリアスペースクリエイターの具現化

4 2030 年目標達成に向けた戦略

5 競争優位を支える経営資源の高度化

6 強靱なグローバル経営基盤の確立

補足資料・データ

車いすユーザーの空旅のハードルを大きく下げる
「ウェルボヤージュ・シート」の挑戦

